

# シンポジウム

司会：岩手県作業療法士会 会長 藤原瀬津雄

## 認知症の人とその家族の暮らしを考えるシンポジウム

シンポジスト 小川（坂庭）晃子 氏  
坂庭正一 氏  
内藤千春 氏  
内藤善久 氏



### 「認知症当事者とその配偶者の暮らしを支えるリハビリテーションに関する経験的語り」

#### 要旨

認知症と診断された当事者は、その後の暮らしのなかで自分自身がどのように変化していくのかわからず、不安と悲嘆を抱えこむことになる。認知症は治らない病気であり進行するがゆえに、当事者の主体性は奪われがちである。また、共に暮らす配偶者は当事者の変化に困惑し、当事者との関係や家庭内役割の再構築がなかなかできない。

誰にきけば解決策を教えてもらえるのか、医療・福祉サービスをどのように利用すればよいのか、そうした情報は不足しており両者ともに孤立感を深めていく。

本シンポジウムにおいては、2組の認知症当事者と配偶者（他分野の研究者）が、その経験をもとにリハビリテーションによる支援の必要性について語りあってみたい。

**略歴** ※認知症当事者は当日の体調による登壇できない場合もあることをあらかじめご容赦願いたい。

内藤千春：1941年生まれ。農芸化学の研究者から専業主婦を経て塾講師等。2017年10月にメモリークリニックお茶の水クリニック朝田医師によりアルツハイマー型認知症と診断される。それを契機に大船渡市越喜来から盛岡市に転居。

内藤善久：1941年生まれ。岩手大学名誉教授。専門は臨床獣医学。

坂庭正一：1948年生まれ。民間シンクタンクのコンサルタントとして定年まで勤務した後に岩手県に移住。2017年9月に岩手医科大学脳神経内科・老年科においてアルツハイマー型認知症と診断される。

小川（坂庭）晃子：1954年生まれ。岩手県立大学名誉教授。専門は地域福祉（見守り）。